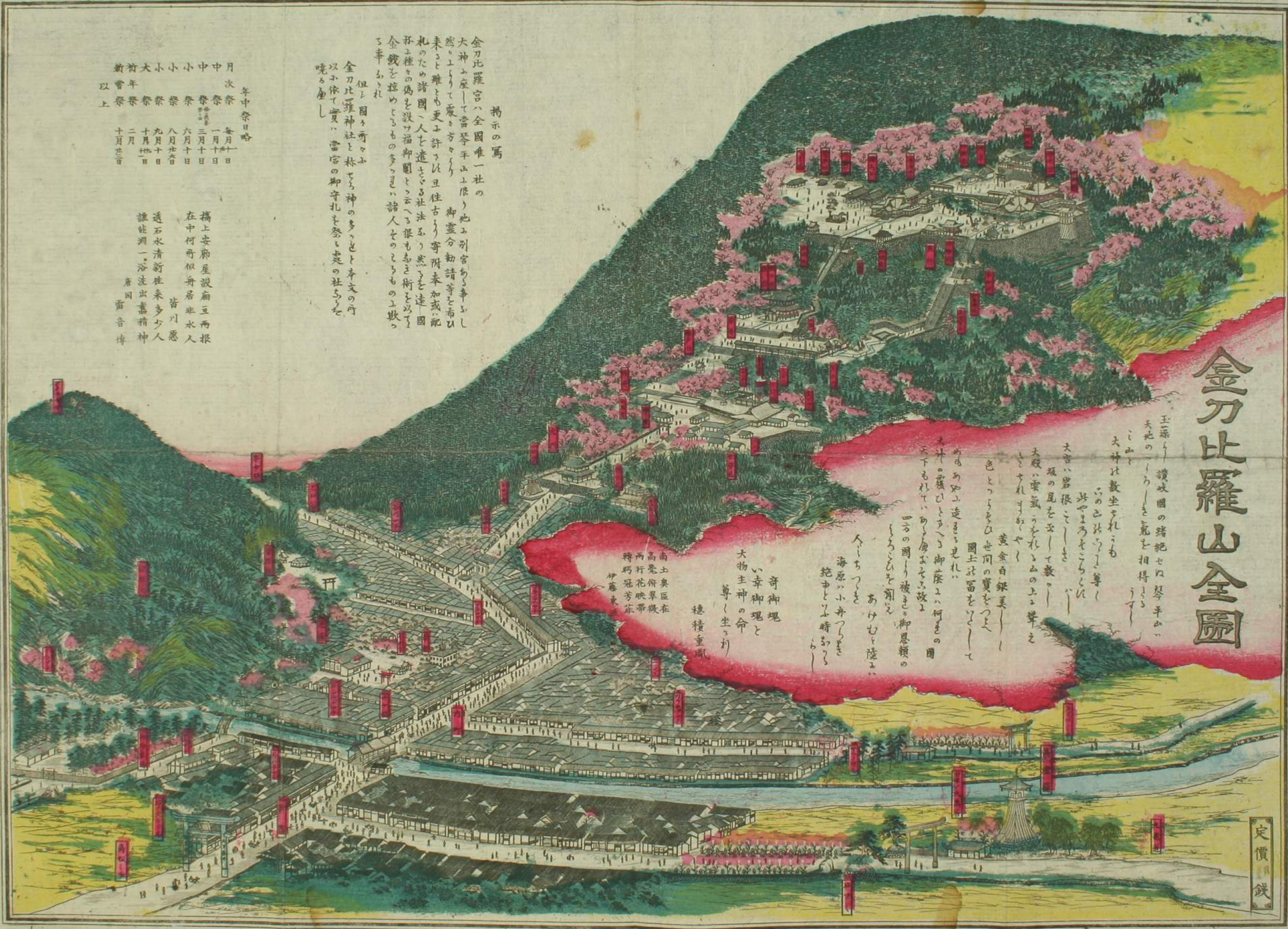


金刀比羅山全圖



年中祭日略

月次祭	毎月十日
中祭	一月十日
小祭	三月十日
小祭	六月十日
小祭	八月十日
小祭	九月十日
小祭	十月十日
新嘗祭	十月三日
以上	

指示の寓
 金刀比羅宮ハ全國唯一社の大神ニ座して雷琴手山ニ依り地ノ別宮あり事ハ然レヨリて慶々方々ノ御靈分初詣等ヲ布ヒ来リト雖とも更ニ許リ以旦住古ノ寄附未加或ハ配札ノため諸國ノ人ト違々ニ社法ニ異々ト違々ニ杯ノ種々ノ偽ヲ設ケ福御聞ト云ヘテ根もあま街を以テ金鏡ヲ括めしもの多ク是ハ諸人トのころもの上欺つ事アリ

但レ國々寄々ハ金刀比羅神社ト稱テテ神ノ多ク是ト本文ノ所以下休テ更ハ當宮ノ御守札ヲ祭ニ定メ社ヲトモ曉ラ座シ

橋上安前屋設廟豆而根
 在中何可似寄居非水人
 皆川愿
 透石水清新往未多少人
 誰能洞一浴注出嘉精神
 唐同
 雷音傳

奇神現
 幸御理と
 大物主神ノ命
 尊し坐す所
 穂積重胤

南土奥巨在
 高亮御草履
 兩行花吹帶
 袴巧冠芳菲
 伊藤東

玉藻ノ護岐國ノ瑞絶セハ琴手山ハ天地ノ一ノリノ氣ヲ相得ルコト大神ト敬坐されしも
 大言ハ若根ニシテ
 大坂ハ雲氣ヲ托レ山ノ上ニ聳エ
 色トシテ世間ノ實ヲツク
 國土ヲ富メテ
 天下ノ國一ノ被キテ御恩頼ノ
 人ニチツキ
 海原ハ小舟ヲ
 絶市トシ時
 あけむ陸
 大物主神ノ命
 尊し坐す所
 穂積重胤

定價 錢

關文會出版部製
 小池長泰
 合精

明治十三年出版
 關文會出版部製
 小池長泰





金刀比羅山

玉藻より讃岐國の緒
天地のまはりきと氣

こ山と

大神社敷坐され
この山は

此やまろ

大宮ハ岩根こ
坂の尾をま

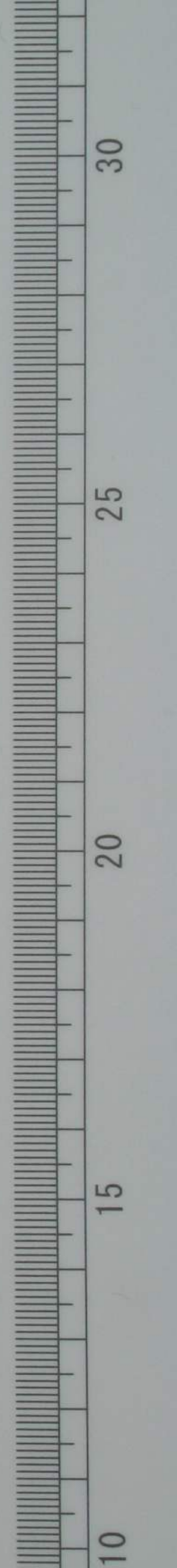
大殿ハ雲氣うを
こせれまの

色とつらそひ

めもあゆ造ま
大洋ハ覆ひと

天下もれハあ
四方の

掲示の寫



年中祭日略

月次祭	毎月十日
中祭	一月十日
中祭	三月十日
小祭	六月十日
小祭	八月廿六日
小祭	九月十日
大祭	十月廿一日
祈年祭	二月
新嘗祭	十月廿三日
以上	

搞上安廊屋設廂豆兩根
 在中何所似舟居非水人
 皆川愿
 透石水清新往來多少人
 誰能洲一浴洗出舊精神
 唐国
 雷音博

掲示の馬
 金刀比羅宮ハ全國唯一社の
 大神ニ座して當琴平山ノ隈ニ他ニ別宮ある事ナシ
 然ルニよりて處々方々より 御靈分初請等を希ひ
 来ると雖とも更ニ許さば且往古より寄附奉加或ハ配
 札のため諸國一人を遣はさる社法あり然るを遠國
 杯ニ種々の偽を設け福御圖と云へる根もなき術を以て
 金錢を掠めとるもの多し諸人そのころもの上欺つ
 る事ふれ
 但レ國々所々ニ
 金刀比羅神社と称せし神の多しと本文の所
 以ニ依て實ハ當宮の御守札を祭る處の社ありを
 曉らぬし



金刀比羅山全園

玉藻より讃岐國の緒絶せぬ琴平山
 天地のつらきと氣を相得る

大山に敷坐せられも

此の山はつらき尊く
 此やまろそつらき

大宮ハ岩根こころも

坂の尾をさして敷

大殿の雲氣うをれる山の上は聲え
 こころをさしや

黄金白銀美

色とつらそひ世間の寶をつと

園土は富をりて

めもあやふ造まに見れ

大井の覆ひとてへる御蔭よハ何もの園

天下もれてハあやふ故

四方の園より被ま。御恩頼の

こころを聞え

あけむと陸

人ちつき

海原ハ小舟つらき

絶中とよ時あ

奇御魂

幸御魂と

大物主神の命

尊く坐り

穂積重胤

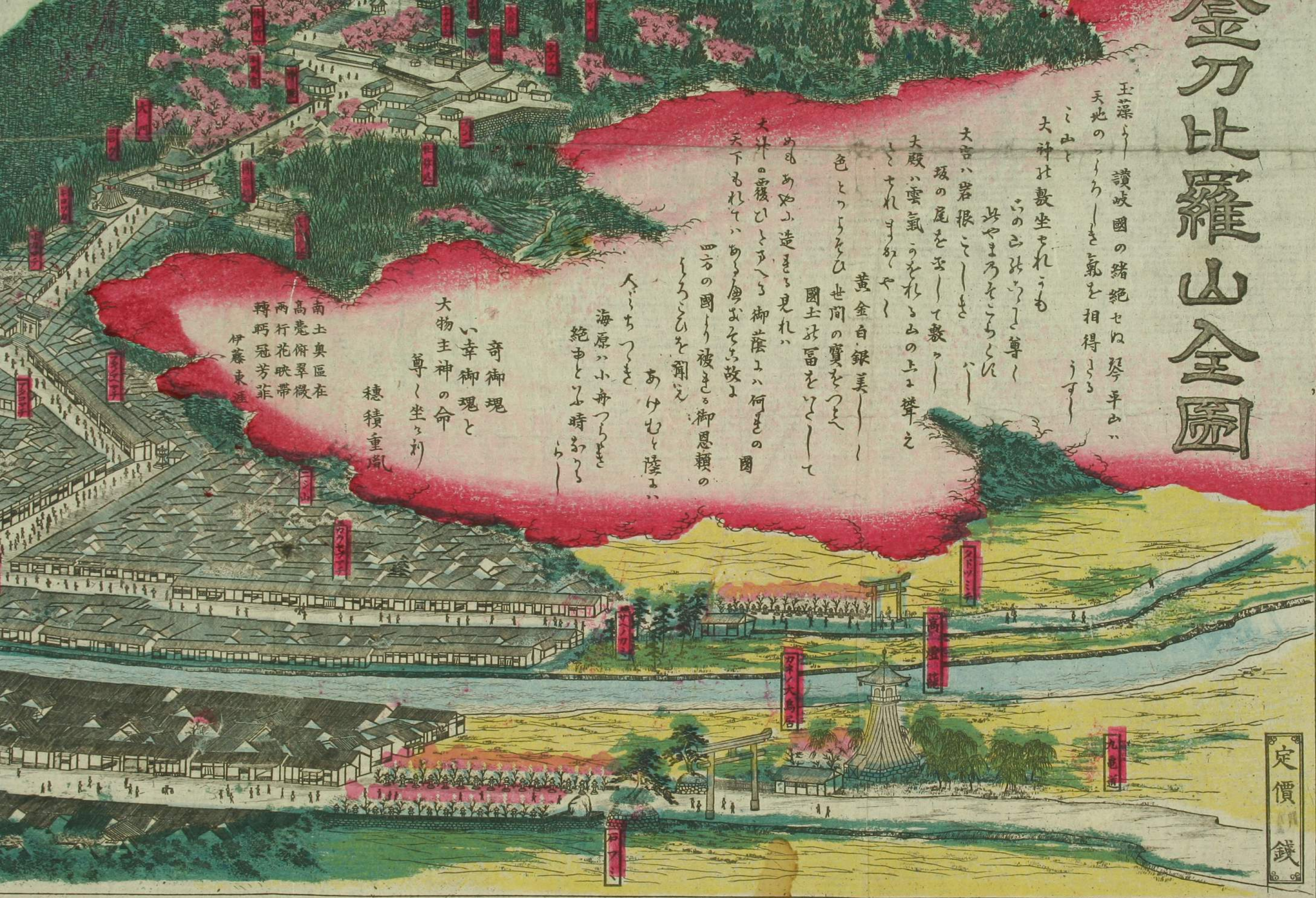
南土奥區在
 高菟俯翠微
 兩行花映帶
 轉巧冠芳菲
 伊藤東涯

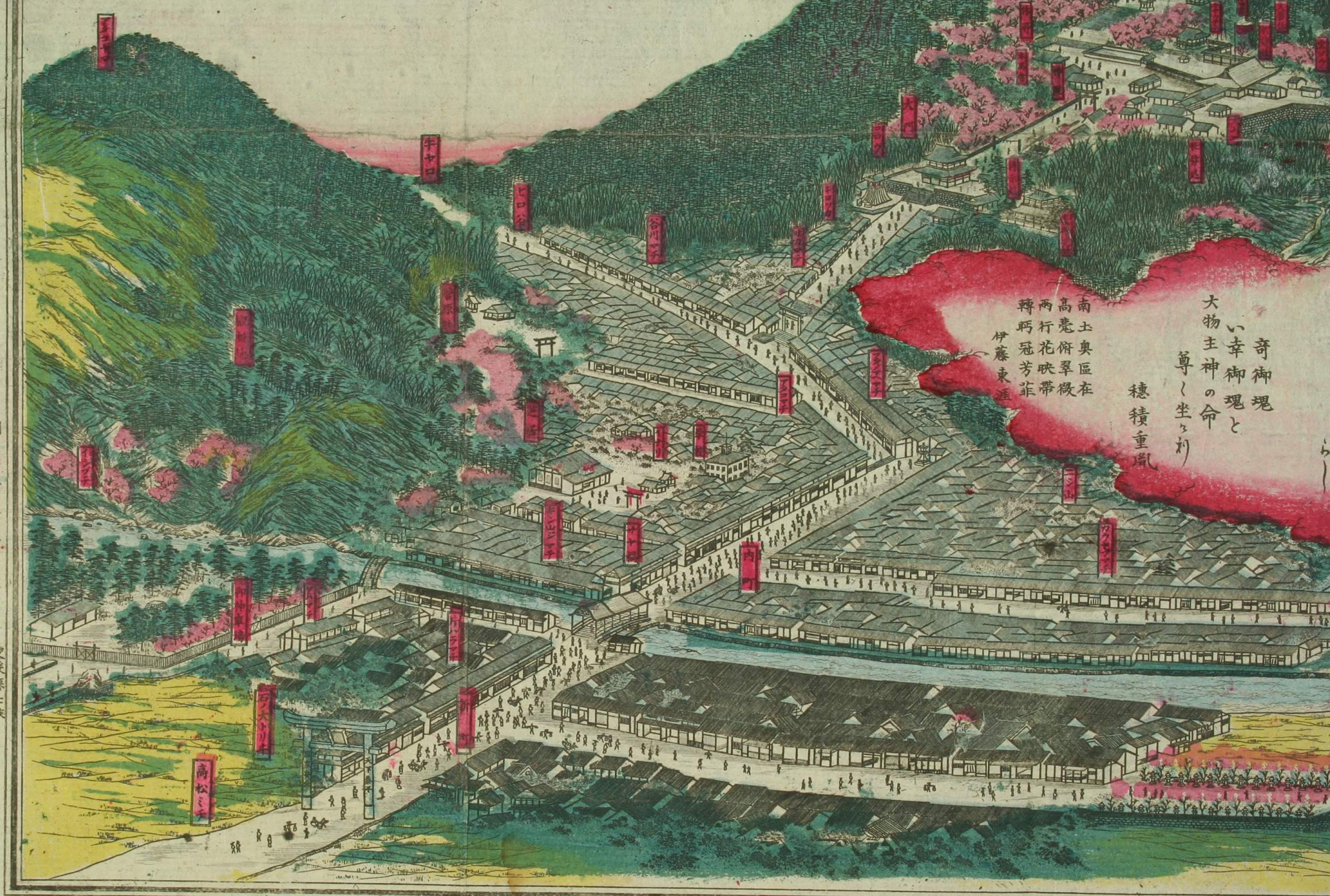
高松 関文舎出版部製

小畑延保
 長瀬長幸
 小池長幸

合鑄

定價 錢





奇御魂と
 い幸御魂と
 大物主神の命
 尊く坐り
 穂積重胤

南土奥區在
 高菟俯翠微
 兩行花映帶
 轉巧冠芳菲
 伊藤東涯

明
 治
 十
 三
 年
 出
 版
 入

愛媛縣士族
 高松
 岩太
 吉川郡龜井千八十番邸